

令和5年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

港湾振興課

1 施設の概要等

施設名	福山地域マリーナ施設		
所在地	福山市新涯町2丁目23-1等2地区		
設置目的	プレジャーボートの適正な係留保管の促進		
施設・設備	山根木材ボートパーク福山（以下「BP 福山」という。）（海上艇置施設、駐車場、トイレ・多目的トイレ） 柳津プレジャーボートスポット（以下「柳津PBS」という。）（海上艇置施設、駐車場）		
指定管理者	1期目	H28. 4. 1～R8. 3. 31	福山地域ボートパーク運営共同企業体
		H26. 4. 1～H28. 3. 31	BP 福山：シダックス大新東ヒューマンサービス・ベルボート広島 運営共同企業体
			柳津PBS：㈱ひろしま港湾管理センター

2 施設利用状況

利用状況	年度	収容可能艇数	目標値 [事業計画]	艇置数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	1期	R5	493艇	445艇	417艇	△15艇
R4		493艇	435艇	432艇	5艇	△3艇 (99.3%)
R3		493艇	423艇	427艇	14艇	4艇(100.9%)
R2		493艇	411艇	413艇	6艇	2艇(100.5%)
R1		493艇	411艇	407艇	13艇	△4艇 (99.0%)
H30		493艇	421艇	394艇	△18艇	△27艇 (93.6%)
H29		493艇	421艇	412艇	13艇	△9艇 (97.9%)
H28		493艇	409艇	399艇	13艇	△10艇 (97.6%)
	H26～H27(平均)※	493艇	302艇	386艇	—	84艇(127.8%)
増減理由	利用者の高齢化に伴い、死去や安全のため、船を手放す方が増加していること。					

※平成26～27年度の平均は、BP福山と広島港及び尾道糸崎港における小型船舶特定係留施設に含まれていた当該施設の一部である柳津PBSに係るものを合算したものである。

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	<b>【実施方法】</b>	<b>【対象・人数】</b>
	利用者意見箱の設置	利用者全員・19名（のべ数）
	1日2回以上の棧橋巡回	利用者全員・180名（のべ数）
	ホームページ質問欄	利用者全員及び一般市民・10名
	<b>【主な意見】</b>	<b>【その対応状況】</b>
	施設の老朽化や破損箇所の修繕をしてほしい。 ビジターバースを整備、防波堤機能の強化や大型艇の係留施設の新設をしてほしい。（BP福山）	対応可能な部分の修繕に努める。 広島県と連携して、対応を検討する。

4 県の業務点検等の状況

項目		実績	備考
報告書	年度	○	事業報告書
	月報	○	入艇状況報告等
	日報（必要随時）	○	日報の中の主要な苦情、要望等について随時報告
管理運営会議（随時）	<b>【特記事項等】</b> 現地調査を実施した。 <b>【指定管理者の意見】</b> 事業実施計画に基づき適切に実施した。 <b>【県の対応】</b> 適切に管理運営が実施されていることを確認した。		
現地調査			

5 県委託料の状況

(単位：千円)

県委託料 (決算額)	年度		金額	対前年度増減	料金 収入 (決算額)	年度		金額	対前年度増減
	1期	R5		0		0	1期	R5	
R4			0	0	R4			56,883	990
R3			0	0	R3			55,893	1,753
R2			0	0	R2			54,140	1,516
R1			0	0	R1			52,624	465
H30			0	0	H30			52,159	60
H29			0	0	H29			52,099	488
H28			0	△30,125	H28			51,611	51,611
H26～H27 (平均)※			30,125	—	H26～H27 (平均)※			該当なし	

※ 平成26～27年度の平均は、BP福山と広島港及び尾道糸崎港における小型船舶特定係留施設に含まれていた当該施設の一部である柳津PBSに係るものを合算したものである。

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		R5 決算額	R4 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	0	0	0	
		料金収入(※1)	56,695	56,883	△188	艇数減
		その他収入	55	342	△287	利用者損壊棧橋修繕費の利用者負担分減
		計(A)	56,750	57,225	△475	
	支出	人件費	19,585	16,043	3,542	スタッフの入退職による増
		光熱水費	721	800	△79	
		設備等保守点検費	1,678	1,413	265	予備ブイ等の購入増
		清掃・警備費等	682	738	△56	
		施設維持修繕費	796	1,634	△838	設備補修工事の減
		事務局費	11,692	13,562	△1,870	共同企業体運営負担費の減
		その他	6,842	6,811	31	
	計(B)	41,996	41,001	995		
	収支①(A-B)		14,754	16,224	△1,470	
	自主事業 (※2)	収入(C)	1,194	1,064	130	イベント収入の増
支出(D)		233	14	219	イベント経費の増	
収支②(C-D)		961	1,050	△89		
合計収支①+②		15,715	17,274	△1,559	(うち県への納付額15,200千円) (R5) ※3	

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。指定管理者の自主的な経営努力を發揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

※3 資本費相当額：県が負担した施設の整備費を収益から負担金として納付されている。

## 7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画、主な取組、新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の設置目的に沿った業務実績</li> <li>○業務の実施による、県民サービスの向上</li> <li>○業務の実施による、施設の利用促進</li> <li>○施設の維持管理</li> </ul>	<p>近隣船舶業者等との関係性を強化して施設に新規利用者を呼び込むことにより、新規入艇の促進を図った。</p> <p>BP 福山は第2入退ゲート付近への駐車場設置、防波機能の強化、大型艇の係留場所の新規、柳津PBSは根本的な修繕、風波防止機能の強化、トイレ等の設置、港口周辺浚渫など、利用者からの要望は多く、絶えることはないが安全に関わることを最優先とし、広島県と協議し、積極的に対応致したい。</p> <p>施設の景観及び利用者満足度を維持するため、海鳥による施設棧橋糞害に対して、日々棧橋の清掃作業に多くの時間を割いている。</p>	<p>近隣船舶業者等と連携した新規入艇の促進は、地域における放置艇の削減・新規発生の防止に資するものであり、施設の設置目的に沿った業務が実施されている。</p> <p>多岐にわたる利用者からの要望等に対応するため、県と連携して、施設の安全性、利便性の確保に努めている。</p>
管理の人的物的基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織体制の見直し</li> <li>○効率的な業務運営</li> <li>○収支の適正</li> </ul>	<p>朝夕2回の棧橋巡回に十分な時間をかけることにより、船舶係留状態のこまめな安全確認、施設の不具合箇所や清掃の必要箇所の早期発見につなげている。</p> <p>また、利用者からの質問や要望に対しては交流の機会(安全講習会での座談会等)を設けており、顧客満足度も向上した。</p>	<p>施設の維持管理や安全性の確保、利用者からの要望に応えるため、組織体制が十分整えられている。</p>
総括		<p>令和5年度も特に苦情もなく、情報発信や日々の巡回・挨拶・清掃活動により、利用者や地域住民との信頼関係がより厚いものとなった。</p> <p>また、利用者専用の駐車場としての利用制限を行い、事件や事故を防止する対策を実施するなど、引き続き信頼される地域に根差した施設として、更なる顧客満足度向上を目指して管理・運営を行っていききたい。</p>	<p>新規入艇の促進や施設の維持管理、利用者からの要望等への対応等について真摯に取り組まれている。</p> <p>利用者だけでなく地域住民とも良好な信頼関係を構築・維持することができるよう、日々の管理運営に取り組まれている。</p>

## 8 今後の方向性(課題と対応)

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和6年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入艇促進のため、近隣の船舶業者や釣具店等との関係を強固にするためイベント等相互協力体制をより密にしていきたい。</li> <li>○利用者のニーズに応えるため、ビジターバースの解放や大型艇係留施設の強化を検討したい。</li> <li>○安全を前提として、より楽しいイベントを開催できるよう企画立案して、施設の認知度、顧客満足度を向上させたい。また、柳津PBS利用者にもイベント参加を促していきたい。</li> </ul>	<p>指定管理者が実施する施設のPRや利用者サービスの向上、利用促進の取組について、支援・助言を行うとともに、令和3年度から導入したネーミングライツ事業を活用して、更なる施設の充実に努める。</p>
中期的な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外波の影響を強く受ける区画は空きが多く、利用予定者が施設利用を見送ることも多々ある。外波は船や施設の消耗を早め、損傷を与えるため、防波機能の強化が必要である。(BP福山)</li> <li>○経年劣化に伴い、施設の老朽化がかなり進んでおり、破損箇所も多くなっている。安全に施設を利用するためには、根本的に大規模な修繕が必要である。(柳津PBS)</li> </ul>	<p>施設利用者の利便性向上や新たな利用者の獲得のために、必要な施設の修繕や更新等について、指定管理者と連携して取り組む。</p>